



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

| | |
|--|----|
| 企画展示「古書は語る」の成果と課題 (塩村耕) ... | 1 |
| 中等学校史誌コレクションについて (教職教育研究図書コーナー)(佐々木享) ... | 4 |
| 使ってみよう！電子ジャーナル Part.2 論文データベースとして使う ... | 6 |
| 平成13年度図書館統計 | 7 |
| 講演会のお知らせ | 9 |
| お知らせコーナー | 10 |

企画展示「古書は語る」の成果と課題

塩 村 耕

1. 書誌学勉強会

今回の展示は、図書館員有志が取り組んできた、日本古典籍の取り扱いを実践的に学ぶ書誌学勉強会の余滴として企画された。いわば、展示のための展示ではなく、図書館員の自主的かつ地道な活動の延長にある。まず、このことの意義を強調しておきたい。

名古屋大学では、図書館はじめ各部局にある全古典籍を調査し目録化する和漢古典籍総合目録の計画が年来進められており、現在ほぼ終盤にさしかかっている。この目録が完成するならば、名古屋大学に蔵される古典籍という文化資源の実体が明らかとなり、今後、より広く世の中に活用されることが期待される。それに伴い、図書館員の側にも古典籍を取り扱う能力が要求され、またその能力を適切に伝えてゆくシステムも必要となる。そこで古典籍書誌学の勉強会が発案され、漢籍については文学研究科の杉山寛行教授(中国文学)が、和書については塩村が、お手伝いすることとなった。

和書チームは、まず古典籍の書誌記述法を実習的に勉強した。書誌とは、その書物を実際に

手に取って見ることの出来ない人がわかるように、書物について記述することである。まず書名の決定法から始めて、種々の書誌事項の評価や記述の方法、記述の順序等を考え、さらに糸の綴じ直し等補修方法も体験し、昔の人の製本に込められた知恵を学んだ。

その過程でネックとなったのがくずし字表記で、この問題を乗り越えないと古典籍の内容把握は困難となる。そこで、次にくずし字解読を学ぶこととなった。最初はかな書きを主とした簡単な噺本(笑話本)から、内容がより複雑な西鶴本浮世草子に進み、すぐに解読の初歩は卒業となった。読書会は現在に至っているが、その中から今回の展示の企画が持ち上がったわけである。同時代を活写した、この天才作家による上質な文学に触れることが、結果的に江戸時代の人や社会、ひいては古典籍により深く親しむきっかけとなったならば、西鶴の研究者として望外の喜びである。

2. 展示のねらいと成果

ただ残念ながら、東大や京大、早大、慶大など古い伝統のある大学に比べると、名大の古典

籍コレクションは量も質もひどく見劣りがする。その制約の中でどのようにユニークな展示とするか、スタッフのみんなで知恵を出し合った。

まず、前述の読書会の経験もあるので、浮世草子を取り上げることとなった。名大岡谷文庫には浮世草子が比較的良好揃っており、とりわけ、富豪の蔵書によくあるように、刷りや保存状態のよい美本が多い。

とはいえ、ケースの中にただ展示したのでは芸がない。そもそも冊子体の書物というのはあまり展示に適していない。1冊につき見開き1面しか展示出来ないからで、畢竟目を引きやすい挿絵の箇所を出すこととなり、それでは書物の展示として不十分である。そのような展示で、別の箇所が見たいといらいらする思いをしたのは私だけではあるまい。

そこで思い切って、手に取って実際に読書をする体験をしてもらう展示方法を選んだ。ゆっくりと読んでもらえるよう、椅子も用意した。同時に作品中のある箇所を取り上げて、本文の翻字と挿絵の解説を掲示し、展覧者の読書ガイドとなるよう工夫した。考えてみると、浮世草子こそ日本の大衆小説のはしりと位置づけることが出来る。これ以降、日本人は商品として作られた読み物を楽しむことを覚えたと言ってよい。娯楽としての読書の原点に立ち返ってもらおうというわけである。

結果として、この試みは斬新であるといへん好評であった。和本を初めて手にしたとか、活字で読む感覚と全然違う、とかの感想も寄せられた。たしかに、これだけの和本を前にする機会は通常にはなかろう。なお、資料に何らかのダメージがあり得るのでは、という心配は杞憂に終わった。もちろん取り扱い注意の資料もあるが、一般の和本はたいへん丈夫である。むしろ一部の図書館で見られるような、厳しい閲覧制限のもたらす死蔵の方が、不適切な保存状態を招きやすい。今後の古典籍資料の保存を考

える上で、読まれてこそその書物であることを肝に銘ずべきである。

それからもう一つ、展示の目玉として、名大神宮皇学館文庫の典籍・文書を中心に、原物の資料ならではの話題を取り上げた。和漢古典籍総合目録の締めくくりとして、図書館員スタッフのほか、学生さんも参加して、同文庫の悉皆調査が進行中である。従来簡略な目録しかなかったために、同文庫には研究の手があまり着いていないが、実は貴重な資料が数多く含まれている。同文庫は、戦前官立大学であった神宮皇学館が敗戦後GHQの指令で廃校になった際に、近隣の官立大学であった名大に移管されたもので、本来名大にあるべき資料ではなかったことを思う時、まず詳細な目録を作って然るべく世の利用に供することは急務であろう。

今回は特に伊勢の御師^{おし}たちの活動に注目した。御師とは神宮の神職で、日本人の伊勢信仰の仲介役を果たした人々である。実は同文庫は、神宮御師であった来田家^{きたけ}旧蔵資料を中核としている。展示には、戦国時代の越前朝倉家関係者が御師に銀を預ける依頼状とか、江戸時代後期の御師が多人数の参詣人を自邸に宿泊させた際の収支を記した帳面や献立帳などを出した。広く全国に展開した御師たちの活動は、前近代の文化史を考える上で興味深いものがあるが、近年になってようやく研究が進んできたところである。今回の展示が研究の活性化につながることを期待している。

展示に際しては、浮世草子と同様、出来るだけ読んでもらえるように工夫をした。文書類の展示部分については全文の翻字を、透明シールに印刷してガラス面に貼付した。この方法は、たばこと塩の博物館学芸員の湯浅淑子さんに教えていただいたもので、視力の弱い方にも見やすかったと好評であった。

なお、もっぱら図書館員スタッフの尽力で図版ガイド(図録)と電子展示が準備された。前者は写真を多用したもので、これだけでくずし

字解読の練習帳ともなり得るものとなった。後者はとりわけ浮世草子の挿絵に工夫が凝らされた。すなわち挿絵中のセリフが、発話の順番通りにポップアップ形式で飛び出すようになっている。あたかも動画の一場面を見るようで、新鮮であった。この工夫は、同業の近世文学研究者たちに特に評判となったことを付け加えておく。

3. 今後の課題

個人的な感懐であるが、今回の経験で最も印象的であったのが、大学図書館に初めて足を踏み入れた一般の方々の、生き生きとした表情であった。いわゆる法人化を迎え、これからの大学にとって、いかに具体的に地域社会に貢献するかが、存置の鍵となる。そのような意味で大学図書館の果たし得る役割は大きい。すなわち、資料の整備保管や研究閲覧環境の充実のみならず、積極的に社会に対して知的メッセージを発信し続けてゆくことが、必要となってくるであろう。その際、名大図書館には以下の課題が残されている。

新しい図書館としてのインフラ整備

近年行われた展示室の整備が今回の展示を可能としたが、壁面の展示ケースがなく、施設として不十分である。さらに講演会や種々の研究会等に利用出来る施設の確保も必要である。

教学との協力体制

今回の展示会開催から、図書館の所蔵資料が意外と学内の教官や学生に知られていないことが判明した。今後は「資料そのものに関する情報」をまず学内に発信し、カリキュラムと結びつけた展示会を開催してゆくことによって図書館の活性化をはかりたい。そのためにも、教官と図書館職員との緊密な連携協力の体制作りを推進することが望まれる。

広報の強化

展覧者あつての展示である。予想以上の来場者数があったとはいえ、いまだ広報が不足であった。今後は新聞社と継続的な情報連絡のルー

トを確保するとか、関係機関同士のネットワークを拡充するとかの工夫が必要である。

特に今回の展示では、高校生の展覧者があることを期待したが、その方面の広報の方法を持たなかったために不満足な結果に終わった。この点については、高校の校長会とコンタクトを持てばよいという関係者のサジェスションがあった。

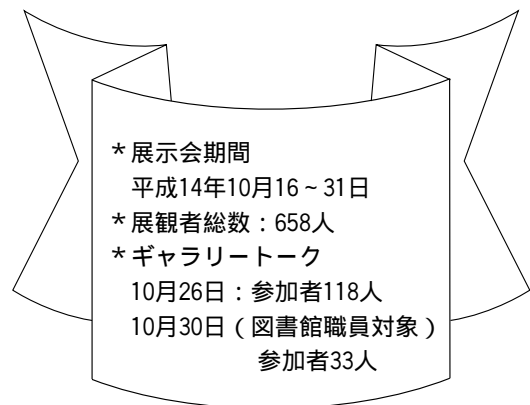
この広報の課題は、大学の基本戦略ともかかわってくるので、大学本部の広報体制との連携が必要となろう。

文化資源の受け入れと保存

この地域は東西交通の要衝に位置し、文献資料の集積しやすい地であった。現に数々の重要な文庫がある外に、個人の所蔵者も少なくない。一方でそれら貴重な文化資源の維持に苦勞しているケースもある。そのような場合に、図書館が積極的に資料を受け入れ、そのみならず、きちんと整理保存し、適切に世の利用に供してゆくシステムを作り上げるならば、これまた大きな地域への貢献といえるであろう。前述した通り、名大の文化資源はいまだ乏しい。地の利を生かした収集戦略が望まれる。

以上は今回この展示会の企画に関わった館員との反省会での意見を中心にしてまとめたものである。

(しおむら・こう 文学研究科教官)



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tenji/2002/kagami.html>

(教職教育研究図書コーナー)

中等学校史誌コレクションについて

佐々木 享

名古屋大学図書館に収蔵されている2000冊近い中等学校史誌コレクションについて、当初からこれらの収集に携わった者として、若干の説明をしておく。このコレクションの主要なものは(新制)高等学校の学校史・記念誌の類で、当事者としていうのもおこがましいが、日本では有数のものの一つである。

「中等学校史誌コレクション」なる呼称には、いくらか説明が必要である。まずこのコレクションは、第二次大戦後に創設された高等学校の学校史・記念誌に限られるわけではない。今日の少なからぬ高等学校は、旧学制のもとで中等学校といわれた中学校、高等女学校あるいは実業学校(工業学校、商業学校、農業学校など)を前身校としている。そのため、(新制)高等学校の学校史は、最も歴史の古い学校でも2002年の今日で発足後54年しか経過していないはずなのに、その前身校の歴史を包括して述べているために、70年史とか100年史などと銘打ったものが少なくない。別の面からいえば、この「中等学校史誌コレクション」は旧制の中学校、高等女学校あるいは実業学校を包括していると考えてよい。

他方この「コレクション」には、旧制の高等学校の学校史・記念誌はふくまれていない。教育研究者の一部には、旧制の高等学校の教育を後期中等教育だったとする者もいるが、旧制の高等学校は、通常は(旧制)専門学校とともに一括して高等専門学校と称され、中等学校と考えられてはいなかったからである。

わたくしが高等学校の学校史・記念誌類の収集を思いついたのは、誰もが経験しているのであたかもよく知られているかに思われている高等学校教育に関する事実を調べたからである。昨今の研究者には想像できないかも知れないが、高校進学率が90%を超えるに至ってようやく困難な問題が自覚されはじめたいまから

僅か30年ほど前には、高等学校の教育に関する研究はなお皆無に等しい状況だった。どんな研究でもそうだが、まず、問題の事実を確認することからはじめなくてはならない。その手がかりを得るべくわたくしが始めたしごとの一つが高等学校の学校史・記念誌類を収集することであった。

こうして収集した資料から豊富な事実を知ることができる。一つだけ例をあげると、たとえば、旧制中等学校の教育実態の基本的枠組みである学科課程表(今日の教育課程表に当たる)は、文部省の認可事項であり、公立校の場合は設置主体の府県等の規則として公示されていたから、府県や国の公文書館などで調べることができる。しかし戦後は、教育の地方分権が徹底した結果、各学校の教育課程表は教育委員会への届け出文書に過ぎなくなったため、公文書として役所には残されていない。当該学校の毎年の『学校要覧』などから調べるしかないが、その『学校要覧』が残されている場合も少ない。(ここには、戦後教育史の基本史料をどう保存するかというより重要な問題があるのだが、論点が拡張されるのでこれ以上触れない。)となると、研究者が教育課程の変遷を知ろうとするなら、その学校史誌の記述に頼るしかない。わたくしはこうした方法で調べたのだが、1948年に高等学校が発足した最初の年度の教育課程表を記載したものは、千数百冊も集めた『学校史』『記念誌』の中にほんの二、三冊しかなかった。逆にいえば、たくさん集めて丁寧に調べれば何冊かはあるということである。

ところで、この「コレクション」を「中等学校史誌コレクション」と称することには一つの難点もある。戦後の(いわゆる新制)中学校の学校史・記念誌を含んでいないからである。これについては、若干の説明が必要である。(以下の記述では「(いわゆる新制の)」を省略する。)

中学校の教育は義務教育の課程とされているために、小学校と一括して議論されることが多い。このために、中学校の教育が中等教育の前期課程であることを軽視する向きが少なくない。わたくしがこの「コレクション」の収集を思いついた際に、このことに気づかなかったわけではない。中学校の学校史・記念誌を収集の対象から除外した直接の理由は、当時のわたくしの関心が高等学校にあったからに過ぎない。もう一つの理由は、事情をよく知らないままに、わたくしに躊躇があったことである。

ある資料の収集を始めるについては、大げさにいえば、いつくかの覚悟がいる。その収蔵場所をどうするかも大きな問題の一つである。高等学校の学校史・誌の場合に限っても、同じ学校が30年史、50年史という具合に何冊もまとめている場合がある。わたくしが収集を始めた当時の高等学校の数は5千を超えていたから、徹底して集めたらどれだけになるか予想ができなかった。取り敢えず高等学校の学校史・誌に限ろうと考えた主要な理由であった。まして1万2千校弱に達する中学校の学校史・記念誌をも収集しようと思ったらどうということになるか予想ができなかったから、そこに躊躇があった。

これは杞憂であった。中学校の学校史・記念誌は、高等学校の場合に較べると、驚くほど少ないことがわかったからである。一例をあげる。東京都教育史の編纂を前提に東京都立教育研究所がかなり努力して収集した小・中・高の各級の学校史・記念誌リストを見ると、高等学校の学校史・記念誌は、わたくしが調べた1999年当時503冊あったが、学校数をはるかに多い中学校のそれはわずか226冊に過ぎなかった。こうした状況は、東京都に限ったことではない。本稿は中学校の学校史・記念誌が少ない理由を探索する場ではないので触れないが、「中等学校史誌コレクション」を標榜する以上は心すべき問題であることを指摘しておく。

さいごに、「中等学校史誌コレクション」が成り立ち、また必要とされる背景について一言する。実は、本来収蔵されていて然るべき国立国会図書館には、中学校、高等学校の学校史・記念誌は極めて少ないのである。なぜ少ないか。

納本することが義務づけられているはずなのに罰則がないため、せっかく努力して編纂された各級の学校史・記念誌は、希に分厚い立派なものができる国立国会図書館に納本されるが、多くの場合は同窓生などの関係者に配布されるにとどまっている場合が多いからであると考えられる。この事情はしばらく続くと考えなくてはならない。いうまでもなく学校史・記念誌の編纂・刊行は今後とも続くであろうが、それらが、いつ、どこの学校で発行されるかはわからない。そこに、これらの収集を継続する困難さがある。いっそうの充実を期待したい。

(ささき・すすむ 本学名誉教授)

来春、演習室（4階）が 情報メディア教育センター サテライトラボとして生まれ変わります！

すでに工事中のため、来年1月末まで閉室のお知らせをしております演習室は、情報メディア教育センターが学内11ヶ所に設置するサテライトラボの一つとして生まれ変わります。講師用1台、利用者用21台のPCを配置して、主に学生用（情報メディア教育センターのユーザIDを持つ方）に利用していただくことができるようになります。通常は室を開放して自由に使用していただき、17時以降や土・日、祝日にはカードリーダーによる入退室管理を行う予定です。

また、20人程度のPCを利用した講習会なども予約制で受け、個人やグループでご活用いただきたいと考えております。開室が近づきましたら、利用方法などを改めてお知らせします。

なお、同じく情報メディア教育センターに無線LAN（20台まで）、情報コンセント（14口）経由で接続できる2階PCコーナーは従前通り利用できます。



◇◇◇◇◇ 使ってみよう！電子ジャーナル ◇◇◇◇◇

Part . 2 論文データベースとして使う
<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/ej/>

今回は、EJアクセスの4つめのパート、アグリゲータ別リストについて解説しましょう。



名古屋大学電子ジャーナル・アクセスサービスでは、引用文献など、掲載誌の判っている特定の論文を探す場合は、ABC順リストや、Journal検索を使うことができました。一方、掲載誌はわからないが、論題に含まれるキーワードや、論文著者、抄録中の語で文献を探したい場合には各アグリゲータの提供する機能を利用します。

どのアグリゲータがどんな分野の雑誌をどれだけ搭載しているのかは、「サービスの概要」(名古屋大内有効)に掲載の「3.提供される電子ジャーナルの概要等」を参照してください。

また、“short memo”(上図)では、アグリゲータが一覧できます。ここでは、収録分野や範囲が簡単に記載されており、各HPへのリンクだけでなく、検索画面・利用マニュアルへのリンクが張られています。上図のリストボックスから選べば、該当アグリゲータのshort memoの内容と、名大で使える雑誌リストが表示されます。(リストの見方については、前号の記事、またはアクセス・サービスの“More info of Lists”を参照してください)。

各アグリゲータは、おおむね、簡易検索と詳細検索の機能を備え、語句間にブール演算子を使えます。トランケーション(前方一致や後方一致)、ワイルドカード(文字の変化)など、記号の使い方や指定の仕方が少しずつ違いますので、詳細は各出版社等の用意したマニュアルをご覧ください。

出版社系アグリゲータでは、発行前論文が見られたり、新刊のContentsをメールで知らせるアラートサービスなどが特徴です。

主なアグリゲータと特徴をいくつか挙げておきましょう。

< 出版社系 >

ScienceDirect (Elsevier Group)

Elsevier Groupの雑誌1200誌以上

検索：全文検索も可。近接演算子利用可
 キーワード・引用アラートサービスあり

WileyInterScience(John Wiley & Sons Group)

生命科学・医学・化学など約400誌

LINK (Springer Group)

化学・コンピュータ・経済など400誌以上

検索：抄録・書誌情報・全文検索

Synergy (Blackwell Publishing)

自然科学系を中心に300誌以上

< アグリゲータ系 >

最新版はフルテキストが見られない場合あり

EBSCOhost

Academic Search Eliteを契約

人文・社会科学を中心に1800誌以上

FirstSearch ECO

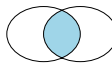
学内購読98誌 + BioOne44誌および


2000, 2001年までの契約誌約430誌


検索：日本語インターフェイスを提供

ひと口メモ

ブール演算子：検索する複数の語句やフレーズ間の論理関係を指定する

AND (論理積：すべてを含む)
 $A \text{ AND } B$ 

OR (論理和：いずれかを含む)
 $A \text{ OR } B$ 

NOT (否定：を除く)
 $A \text{ NOT } B$ 

論文検索には、一般的には二次情報データベースを使います。附属図書館では、全学向けにWeb of Science, OVID(BA, EBMR, MEDLINE, ERIC, PsycINFO), NICHIGAI/WEBといったオンラインのデータベースを提供しています。幅広く検索する場合や、特定分野の場合は、こちらも併せてご利用ください。

ホームページ「文献検索」(<http://www.nagoya-u.ac.jp/db/>)からどうぞ

(参考調査掛)

平成13年度附属図書館蔵書冊数及び年間図書・雑誌受入数

| 区 分 | 蔵書冊数 (H14. 3.31現在) | | | 平成13年度図書受入数 | | | 平成13年度雑誌受入種類数 | | |
|---|----------------------|-----------|-----------|-------------|--------|--------|---------------|-------|--------|
| | 和 書 | 洋 書 | 合 計 | 和 書 | 洋 書 | 合 計 | 和 雑 誌 | 洋 雑 誌 | 合 計 |
| 中央図書館 | 584,584 | 411,074 | 995,658 | 11,983 | 3,347 | 15,330 | 3,653 | 797 | 4,450 |
| 医学部分館 | 64,190 | 105,542 | 169,732 | 984 | 2,110 | 3,094 | 570 | 866 | 1,436 |
| 医学部分館 保健学情報資料室 | 28,361 | 5,098 | 33,459 | 682 | 194 | 876 | 331 | 79 | 410 |
| 文学部・文学研究科 | 136,963 | 94,292 | 231,255 | 2,925 | 2,243 | 5,168 | 969 | 433 | 1,402 |
| 教育学部・教育発達科学研究科 (含 附属学校) | 69,477 | 40,148 | 109,625 | 1,711 | 1,966 | 3,677 | 445 | 353 | 798 |
| 法学部・法学研究科 | 112,432 | 82,877 | 195,309 | 2,425 | 2,371 | 4,796 | 586 | 61 | 647 |
| 経済学部・経済学研究科 (含 附属国際経済動態研究センター) | 129,708 | 119,129 | 248,837 | 3,194 | 2,186 | 5,380 | 794 | 440 | 1,234 |
| 情報文化学部 (含 人間情報学研究科 ・国際言語文化研究科・言語文化部) | 104,713 | 88,436 | 193,149 | 3,770 | 3,583 | 7,353 | 561 | 303 | 864 |
| 理学部・理学研究科 | 19,575 | 71,449 | 91,024 | 400 | 1,500 | 1,900 | 294 | 612 | 906 |
| 工学部・工学研究科 (含 先端技術共 同研究センター) | 77,183 | 113,008 | 190,191 | 2,486 | 2,237 | 4,723 | 837 | 575 | 1,412 |
| 農学部・生命農学研究科 | 62,391 | 59,264 | 121,655 | 1,136 | 1,317 | 2,453 | 1,062 | 407 | 1,469 |
| 大学院国際開発研究科 | 12,750 | 15,639 | 28,389 | 1,348 | 1,690 | 3,038 | 129 | 184 | 313 |
| 大学院多元数理科学研究科 | 10,078 | 80,487 | 90,565 | 511 | 1,646 | 2,157 | 55 | 438 | 493 |
| 環境医学研究所 | 1,898 | 6,790 | 8,688 | 0 | 68 | 68 | 207 | 49 | 256 |
| 太陽地球環境研究所 | 3,564 | 9,044 | 12,608 | 23 | 316 | 339 | 13 | 34 | 47 |
| 地球水循環研究センター | 3,408 | 11,629 | 15,037 | 40 | 335 | 375 | 179 | 152 | 331 |
| アイソトープ総合センター | 177 | 87 | 264 | 1 | 0 | 1 | 5 | 4 | 9 |
| 化学測定機器センター | 20 | 348 | 368 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 情報メディア教育センター | 115 | 144 | 259 | 39 | 1 | 40 | 11 | 0 | 11 |
| 高温エネルギー変換研究センター | 54 | 19 | 73 | 2 | 0 | 2 | 3 | 0 | 3 |
| 遺伝子実験施設 | 19 | 29 | 48 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 年代測定資料研究センター | 49 | 14 | 63 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 |
| 生物分子応答研究センター | 27 | 79 | 106 | 0 | 3 | 3 | 3 | 0 | 3 |
| 留学生センター | 2,434 | 1,057 | 3,491 | 34 | 37 | 71 | 0 | 0 | 0 |
| 理工科学総合研究センター | 101 | 186 | 287 | 11 | 14 | 25 | 0 | 3 | 3 |
| 農学国際教育協力センター | 27 | 8 | 35 | 13 | 1 | 14 | 1 | 0 | 1 |
| 大型計算機センター | 1,777 | 2,979 | 4,756 | 14 | 61 | 75 | 33 | 23 | 56 |
| 総合保健体育科学センター | 8,071 | 4,698 | 12,769 | 238 | 99 | 337 | 33 | 33 | 66 |
| 合 計 | 1,434,146 | 1,323,554 | 2,757,700 | 33,970 | 27,325 | 61,295 | 10,775 | 5,849 | 16,624 |

平成13年度 中央図書館利用状況

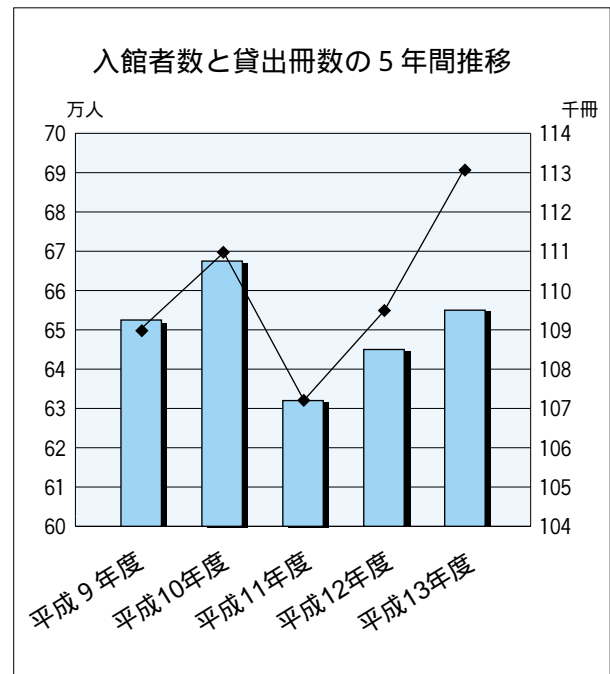
| 項 目 | 平成12年度 | 平成13年度 | 備 考 |
|----------------------------|------------------|------------------|--|
| I 奉仕対象者数 | 20,063人 | 20,134人 | 学生 10,778人；院生 5,906人； 教官 1,847人；職員 1,603人 |
| II 閲覧サービス | | | |
| 1. 年間開館日数 | 328日 | 330日 | うち土・日・祝日開館 103日 |
| 2. 年間入館者数 | 644,230人 | 654,886人 | |
| 3. 館外貸出冊数 | 109,519冊 | 113,101冊 | 一日平均 498冊 |
| III 参考調査サービス | | | |
| 1. 調査依頼者数 | 2,980人 | 2,699人 | 学内者 2,023人，学外者 676人。 延取扱件数 3,974件 |
| 2. 他機関への調査依頼 | 6件 | 9件 | |
| 3. 情報検索利用件数 | 54件 | 140件 | JOIS 2件；STN 3件；日経テレコン 2件；NACISIS-IR 114件 |
| 4. CD-ROM利用件数 (ネットワーク) | 59,433件 | 39,269件 | MEDLINE 25,235件；BA 7,734件； ERIC 545件；PsycINFO 4,194件 ；NTIS 328件；EBMR 1,233件 |
| 5. CD-ROM利用件数 (スタンドアロン) | 1,184件 | 908件 | 雑誌記事索引(専用端末分)276件； SCI 209件；PDF 266件 ；CD-HIASK 70件；JCR 34件；その他 53件 |
| 6. オンライン検索 | 48,631件 | 25,355件 | NICHIGAI//WEB (雑誌記事索引・マガジンプラス)24,493件 ；Web of SCIENCE 862件(1ヶ月) |
| 7. 電子ジャーナル利用件数 (検索数) | 81,527件 | 168,601件 | EBSCOhost 23,548件；FirstSearch ECO 26,655件 ；ScienceDirect 118,398件(利用統計が 採取できるもののみ掲げた。) |
| 8. OPACアクセス件数 | 756,454件 | 816,935件 | 学内件数 730,046件；学外件数 86,889件 |
| 9. 図書館HPアクセス件数 | 2,504,472件 | 5,054,187件 | 学内件数 1,738,528件；学外件数 3,315,659件 |
| IV 相互利用サービス(他機関) | | | |
| 1. 図書貸出 | 1,247件 | 1,392件 | |
| 2. 図書借受 | 75冊 | 93冊 | |
| 3. 文献複写受付件数 | 12,405件 | 11,979件 | |
| 4. 文献複写依頼件数 | 618件 | 524件 | |
| 5. 他機関の利用申請 | 610人 | 457人 | 紹介状発行 457人； 国立大学共通閲覧証発行(H12.7廃止) |
| V 館内資料の文献複写利用 | | | |
| 1. 文献複写枚数 (館内備付複写機利用) | 996,133枚 | 1,035,150枚 | |
| 2. コピーデリバリー・ サービス | 1,684件 4,689枚 | 1,418件 2,844枚 | |
| 3. コンテンツシート・ サービス | 1,922件 | 2,342件 | 延利用人数 5,365人 |
| VI 館内施設利用 | 23件 | 37件 | 延利用人数 664人 |
| 1. 研究個室 | 545件 | 525件 | 延利用人数 2,743人 |
| 2. 演習室 | 584件 | 499件 | 延利用人数 1,141人 |
| 3. グループ研究室 | 564件 | 380件 | |
| 4. 共同研究室 | | | |
| 5. 視聴覚室 | | | |

中央図書館利用状況 ショートコメント

例年どおり、前年度と比較した統計値を掲載しておりますが、この5年間を見ますと、奉仕対象者は655人（3.4%）、年間開館日は7日（2.2%）それぞれ増加し、共に漸増傾向にあります。

全般的な利用状況を示す入館者数（右図棒グラフ、左目盛）は、平成11年度に約5%落ち込んだ後回復傾向にあります。また、貸出冊数（右図折れ線グラフ、右目盛）も平成11年度に約3%落ち込んだ後回復、平成13年度は10年度より多くなっています。

参考調査サービスでは、従来型サービスが減少傾向、電子ジャーナルの利用やOPACのアクセスが増え、電子図書館的サービスの利用へシフトしている傾向が覗えます。



講演会のお知らせ

【名古屋大学附属図書館研究開発室講演会】

主催：名古屋大学附属図書館研究開発室、
名古屋大学附属図書館、東海地区大学図書館協議会

学術情報の電子化が意味するもの 研究者の立場から

講演者：倉田敬子 慶應義塾大学 人文社会学科 図書館・情報学専攻 教授

日時：平成14年12月13日（金）13:30～16:00

会場：名古屋大学附属図書館多目的室

講演者：倉田敬子先生は長く研究者と学術コミュニケーションについて研究を行っている。

主な著作に『情報の発生と伝達』（共著）勁草書房.1992. 『電子メディアは研究を変えるのか』（共著）勁草書房.2000.がある。

講演概要：学術情報の電子化の急速な進展により、大学図書館は既存の印刷資料の保存・提供を行いながら、電子雑誌などの電子的メディアの導入を促進するという困難な課題に直面している。この学術情報の電子化という現象は、これまで何十年もしくは100年以上にわたって維持されてきた学術情報流通システムを根本から変容させる出来事である。現在は過渡期であり、将来の明確な方向性は見えないが、個別の図書館が直面している問題を取り上げるのではなく、あえて大きな視野の下で学術情報の電子化がもたらすものとは何なのかを考えてみたい。

この講演では特に、研究者、科学者の立場から、学術情報の電子化を考える。学術情報の生産者であり利用者である研究者は、研究活動を進めるにあたって、どのように情報をえているのか、なぜある情報源が好まれるのか、そして電子的なメディアが実際にどの程度利用されているのか、これらに関して最近の調査結果に基づき概観していく。

お知らせ コーナー

展示会のお知らせ (川とともに生きてきた)

平成15年3月7日～16日

講演会：3月8日(土) 13:30～

(於：附属図書館多目的室)

附属図書館ホームページ更新

<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp>

ホームページがリニューアルしました。ぜひ、一度アクセスしてください。

今後ともより使いやすいサイトをめざします。ご意見等は、“HELP”からメールをお寄せください。

電子ジャーナルサービスの障害窓口について

電子ジャーナルの急速な拡大に伴い、利用方法及びアクセス障害についての問い合わせ等も増えております。附属図書館は利用者みなさんに良好な状態で利用していただくために障害窓口を設けています。

sanko@nul.nagoya-u.ac.jp

(附属図書館ホームページ「名古屋大学電子ジャーナル・アクセスサービス」画面右下に表示)

参考調査掛(内線3680)または、雑誌掛(内線3687～8)

各部局図書室等電子ジャーナル連絡会担当者

Web of ScienceにOPACリンク機能追加

Web of Science の検索結果から、OPAC検索へのリンクボタンがつけました。

HOLDボタンを押すと、名古屋大学OPACをISSNで検索した結果が表示されます。

FullTextボタンのない場合は、このボタンを押して、所蔵情報を確認してください。

(注：名古屋大学に所蔵のない雑誌でもHOLDボタンがつけます。)

劣化マイクロフィルムの複製

平成13年度の田嶋記念大学図書館振興財団による助成金(170万円)の交付を受けて、著しく劣化の進んでいるマイクロフィルムの修復を行ないました。

Psychological review (35mm ; 7リール)

Sovremennik. Series II (35mm ; 113リール)

Trudy tsentral' nogo statisticheskogo upravleniia (35mm ; 11リール)

時事新報 (35mm ; 85リール)

学外者への図書貸出サービスについて

中央図書館では、社会貢献の一環として、学術研究・調査等のため中央図書館が所蔵する図書の貸出を必要とする学外利用者に対して、貸出サービスを平成14年10月1日から開始しました。このサービスを受けるには利用申請が必要です。平日(月～金)の8:45～17:00の間に受付カウンター(052-789-3678)においでください。

貸出対象者 一般市民で館長が貸出を許可した者
(他大学等の学部学生・大学院学生などは対象外です)

貸出対象図書 中央図書館所蔵の開架研究用図書
(各研究コーナーの図書および学習用図書は対象外です)

貸出冊数・期限 1人 5冊以内、14日以内

●●●●●●●●●●●●●●●● [国内図書館関係日誌] ●●●●●●●●●●●●●●●●

- 14.7.12 東海地区国立大学附属図書館長懇談会（於：名古屋大学）出席者：伊藤館長
- 14.7.19 電子ジャーナル・タスクフォース（於：東京大学）出席者：伊藤館長
- 14.7.30 平成14年度東海地区大学図書館協議会総会・研究集会（於：金城学院大学）
出席者：伊藤館長、内藤事務部長、藤森情報管理課長、臼井情報サービス課長、伊藤情報管理課
課長補佐、小崎和子（理）、戸床トシ子（理）、杉本万里子（環医）
- 14.7.30 愛知県大学図書館連絡会（於：金城学院大学）
出席者：伊藤館長、内藤事務部長、藤森情報管理課長、臼井情報サービス課長、伊藤情報管理課
課長補佐、小崎和子（理）、戸床トシ子（理）、杉本万里子（環医）
- 14.7.31 電子ジャーナル・タスクフォース（於：東京大学）出席者：伊藤館長、郡司情報システム課長
- 14.8.26 法人格取得問題に関する附属図書館懇談会（第5回）（於：東京大学）出席者：伊藤館長
- 14.8.26～27 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会（東地区）（於：東京工業大学）
出席者：伊藤館長、川添参考調査掛長（事例報告）
- 14.8.28～29 電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会（西地区）（於：大阪大学）出席者：伊藤館長
- 14.9.5 国立大学図書館協議会臨時常務理事会（平成14年度第1回）（於：東京大学）
出席者：伊藤館長、内藤事務部長、藤森情報管理課長
- 14.10.3 第1回国立七大学附属図書館長会議（於：東北大学）出席者：伊藤館長
- 14.10.3 第35回国立七大学附属図書館部課長会議（於：東北大学）
出席者：内藤事務部長、郡司情報システム課長
- 14.10.4 第76次国立七大学附属図書館協議会（於：東北大学）
出席者：伊藤館長、内藤事務部長、郡司情報システム課長

●●●●●●●●●●●●●●●● [学内動向] <14.7.6～14.10.5> ●●●●●●●●●●●●●●●●

会議

- ・東洋学文献コーナー小委員会（持ち回り）
（第14-1回）<7.8>
- ・第4回研究開発室教工会<7.15>
- ・蔵書整備委員会（第14-2回）<7.17>
- ・電子図書館推進委員会（第14-2回）<7.17>
- ・図書館システム検討委員会（第14-3回）<7.26>
- ・和漢古典籍整理専門委員会（第14-1回）<8.1>
- ・第14-4回学術情報事務会議<8.1>
- ・情報系戦略会議<8.30>
- ・第14-3回附属図書館商議員会<9.4>
 - ・名古屋大学附属図書館中央図書館利用細則等の一部改
正について
 - ・附属図書館中期目標・中期計画について
 - ・平成13年度附属図書館図書費決算について
 - ・平成13年度附属図書館運営費決算について
- ・平成14年度附属図書館図書費実行予算について
- ・平成14年度附属図書館運営費実行予算について
- ・平成14年度附属図書館研究開発室運営費実行予算につ
いて
- ・電子ジャーナル導入方針及び購読経費確保の在り方に
ついて
- ・法人格取得後の商議員会のあり方と附属図書館長の選
任方法について
- ・卒業論文、修士論文、博士論文の取扱いについて
- ・情報戦略懇談会<9.18>
- ・蔵書整備委員会（第14-3回）（持ち回り）<9.24>
- ・第14-5回学術情報事務会議<9.27>
- ・第5回研究開発室教工会<9.30>
- ・第14-4回附属図書館商議員会（持ち回り）<10.4>
 - ・附属図書館研究開発室助手定員の欠員流用申請につ
いて

研修会・講習会等への参加

- ・引用文献データベース「Web of Knowledge」利用説明会（於：医学部講義室）＜ 6.25～ 6.28.7.2～ 7.3＞参加者：約70名
- ・平成14年度大学図書館職員長期研修（於：国立オリンピック記念青少年総合センター他）＜ 7.8～ 7.26＞参加者：石田康博（医）
- ・図書系職員初任者研修（於：名古屋大学）＜ 7.18, 19, 23＞参加者：大嶋寛子、三好千里、小山祐子（以上中） 山川幸恵、平田沙矢香（以上医） 眞野博和（農）
- ・電子ジャーナル利用者説明会 [S D]（於：名古屋大学）＜ 7.22＞参加者：14名
- ・大学図書館職員長期研修 S C S 視聴（於：名古屋大学）＜ 7.22～ 7.25＞参加者：41名
- ・図書館等著作権実務講習会（於：東京大学）＜ 7.24～ 7.26＞参加者：森由香（法）、岡本電子情報掛長
- ・独立行政法人セミナー（於：名古屋観光ホテル）＜ 7.24＞参加者：藤森情報管理課長、鈴木会計掛長
- ・愛知淑徳大学図書館実習（於：名古屋大学）＜ 8.5～ 8.9＞参加者：8名
- ・平成14年度愛知県図書館研究会高等学校部会名瀬地区第2回研究会（司書部会）（於：愛知県立瀬戸窯業高等学校）＜ 8.21＞参加者：小倉文子（附校）
- ・メタデータ説明会（於：名古屋大学）＜ 8.22＞参加者：48名
- ・電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会（東地区）（於：東京工業大学）＜ 8.26～ 8.27＞参加者：川添真澄（中）
- ・東海地区医学図書館協議会 平成14年度第1回実務担当者会議（於：愛知医科大学）＜ 8.27＞参加者：平井芳美、渡邊通江、山川幸恵（以上医）
- ・図書館等職員著作権実務講習会（於：広島大学）＜ 8.28～ 8.30＞参加者：八田和子（中）、中村啓子（工）、眞野博和（農）、小倉文子（附校）
- ・電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会（西地区）（於：大阪大学）＜ 8.28～ 8.29＞参加者：萩誠一（中）、今枝文子（育）
- ・オンライン研修会（STN）（於：JST中部営業所）＜ 9.4～ 9.6＞参加者：大嶋寛子（中）
- ・国立情報学研究所メタデータ・データベース共同構築事業説明会（於：名古屋大学）＜ 10.1＞参加者：33名
- ・平成14年度目録システム地域講習会（於：名古屋大学）＜ 10.2～ 10.4＞参加者：中村香世（中）、飛田美穂（中）、三好千里（中）、菊池有里子（経）、安井裕美子（工）、山本舞（国開）
- ・平成14年度後期入学者に対する情報資料室利用オリエンテーション開催（於：名古屋大学国際開発研究科）＜ 10.2, 4＞参加者：5名（以後随時実施）

人物往来

- <はじめまして> - 新しく採用になった人 -
- ・大塩和彦（情報システム課図書情報掛）10.1
- ・安井小恵（農学部・生命農学研究科図書掛）9.24

規程等改正

- ・名古屋大学附属図書館中央図書館利用細則、名古屋大学附属図書館一般市民利用内規、名古屋大学中央図書館利用証交付取扱要項、名古屋大学中央図書館貸出取扱要項（14.10.1改正）
- ・名古屋大学附属図書館医学部分館保健学情報資料室利用細則（14.10.1改正）

部局動向

- ・9.2付けで工学部・工学研究科の機械・電子機械・航空図書室が工学部3号館から工学部2号館（北）へ移転。

編集委員会

- 白井克巳（委員長）鈴木誠（中）鈴木美智子（中）
- 山下真弓（中）森由香（法）眞野博和（農）
- 森田友久（情文）谷川澄子（理）